



神の恵みとしての結婚を表現したパンナ

ウルマンの詩に学ぶ

「結婚を考える③」

読売新聞の日曜版に「名言巡礼」というコラムがある。先日掲載されたのはサムエル・ウルマンの「青春」の一節だ。「年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時初めて老いる」。

戦後、GHQの最高司令官、マッカーサーがオフィスに掲げていたことから日本でもこの一節が有名になつた。私も「青春」を詳しく取り上げた『青春』という本を以前買い求めた。

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う」の一節から始まる「青春」の詩は、ウルマンが七八歳の時の作品で、八十歳記念の詩集『八十

年の歳月の頂から」に収められている。

先日、喜寿を迎えたが、「青春」が今の私とが、『青春』が今私のとほぼ同じ年齢の時に書かれたと知り、ますます詩の一言、一言に引きつけられる。ウルマンはこの詩集を出した四年後に亡くなるが、高齢になり肉体的には老いても理想を失わずに生き抜いたことが伝わってくる。

「青春」が收められた本を取り出し、何度も読み返す。

ふと「秘跡としての結婚」という言葉が頭をよぎる。子育てが終わる始まる「青春」のわり、肉体的營みが弱くなり、体力が衰えて老いる。しかし精神的な營み…自分たちが結りにくいが、答えはここにあるように思える。

写真はマリッジ・エンカウター（より幸せな夫婦になるための運動）で使用するパンナ（タペストリー）のようなものである。チーム・カップルと呼ばれる夫婦の結婚生活の体験を聞く時に、その話のテーマがバ

婚の秘跡という神の恵みの中に生きているという精神的に老いることなく、むしろ充実した日常生活を過ごせる…ウルマンの詩に相通じると思つたのである。

ウルマンは五十八歳の時、妻を失い、詩集に「結婚」という言葉が見いだせないが、私は「青春」という言葉が「結婚」に「理想」は「秘跡（サクラメント）」にオーバーラップする。

スポーツなどの世界では相手に勝つ、記録に挑戦するなど目標がをよぎる。子育てが終わることから始まる「青春」のわり、肉体的營みが弱くなり、体力が衰えて老いる。しかし精神的な營み…自分たちが結婚生活に限らないが、相手を受け入れることには相手に勝つ、記録に挑戦するなど目標が変わらやすい。一方、年を重ねること、夫婦として二人で生きることの目的、目標はわかれりにくいか、答えるはこどものように思える。

「人生のどんなところでも、気をつけて耕せば豊かな収穫をもたらすものが、手の届く範囲にたくさんある」とある。

理想にしろ、神の恵みにしろ、それは日常生活の中の小さな出来事の中にあるのではないだろうか。

ウルマンの詩に学ぶ

「結婚を考える③」

読売新聞の日曜版に「名言巡礼」というコラムがある。先日、喜寿を迎えたが、「青春」が今の私とが、『青春』が今私のとほぼ同じ年齢の時に書かれたと知り、ますます詩の一言、一言に引きつけられる。ウルマンはこの詩集を出した四年後に亡くなるが、高齢になり肉体的には老いても理想を失わずに生き抜いたことが伝わってくる。

「青春」が收められた本を取り出し、何度も何度も読み返す。

ふと「秘跡としての結婚」という言葉が頭をよぎる。子育てが終わり始まる「青春」の詩は、ウルマンが七十歳の時の作品で、八十八歳記念の詩集『八十

年の歳月の頂から」に収められている。

先日、喜寿を迎えたが、「青春」が今の私とが、『青春』が今私のとほぼ同じ年齢の時に書かれたと知り、ますます詩の一言、一言に引きつけられる。ウルマンはこの詩集を出した四年後に亡くなるが、高齢になり肉体的には老いても理想を失わずに生き抜いたことが伝わってくる。

「青春」が收められた本を取り出し、何度も何度も読み返す。

ふと「秘跡としての結婚」という言葉が頭をよぎる。子育てが終わり始まる「青春」の詩は、ウルマンが七十歳の時の作品で、八十八歳記念の詩集『八十

年の歳月の頂から」に収められている。

先日、喜寿を迎えたが、「青春」が今の私とが、『青春』が今私のとほぼ同じ年齢の時に書かれたと知り、ますます詩の一言、一言に引きつけられる。ウルマンはこの詩集を出した四年後に亡くなるが、高齢になり肉体的には老いても理想を失わずに生き抜いたことが伝わてくれる。



藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)
532



マリッジ・エンカウターのパンナから